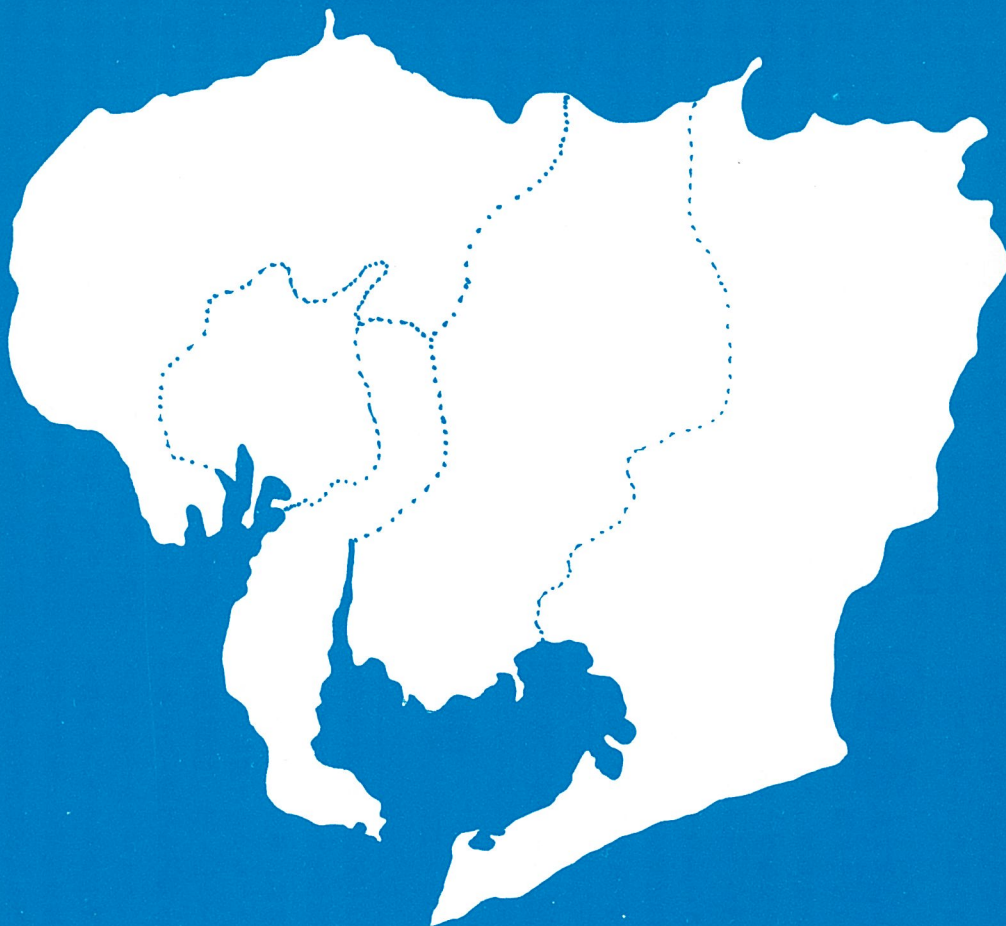


観の眼



目次

巻頭言.....	1	第4回全剣連社会体育指導員	
祝 顕 彰.....	2	養成講習会に参加して.....	18
第26回全国中学校剣道大会.....	2	称号及び段位合格者.....	20
五大都市剣道大会.....	5	事務局だより.....	21
高段者合格への道.....	6	手数料一覧表.....	21
高齢化社会と剣道.....	8	平成9年度事業計画.....	22
ねんりんピック'96宮崎大会.....	9	平成9・10年度役員名簿.....	23
会員の声.....	11	随 想.....	25
N T T 全国剣道大会.....	15	編集後記.....	26
地区便り (東三河).....	16		

第21号



財団
法人

愛知県剣道連盟

日本は経済大国、生活大国と言われるようになりましたが、地下鉄サリン事件、住専、薬害エイズ、いじめ等昨今の相次ぐ事件や社会問題を考えますと、精神生活が乱れ人間としての本当の幸福が見失われていると言えるのではないのでしょうか。このような時、私達は先人が遺してくれた日本固有の美風、伝統を再認識しその実践を通じて世に広め、次の世代に伝えていかなければならないと思います。国家百年の計という言葉があります、国づくりの土台は人づくりであり、二十一世紀を間近にひかえ、これからの百年のビジョンを考えて生きていく青少年たちに剣道の理念を説くことは時代を越えて永遠なものと思えます。



巻頭言

愛知県剣道連盟副会長
名古屋剣道連盟会長 鈴木正雄

んだ時、家庭内における礼儀作法を中心とした徳目教育の効用と活字離れの憂いを指摘されました。人に対する思いやりの希薄化は子供達が日頃礼節が充分身につけていないかったり、またテレビに接する機会が増え本を読まなくなり、自分の想像力を働かせるのが苦手になってしまったためとのことでした。その結果、相手の立場に立った物事の考え方がすぐ頭に浮かばず、適切な対応が上手にできない子供が増えたそうです。

最近話題となりました医学博士、春山茂雄氏の著書「脳内革命」に記述されていました。生き生きとした心身を得るには食事と運動と瞑想の三つがポイントだそうです。即ち、精進料理に代表される粗食とストレッチや呼吸法による運動と座禅的な瞑想により脳内モルヒネの分泌が促進され心身が活性化されるそうです。このことは剣道を修練する姿と共通点が多いことに気がきました。剣道が人間の心身にとって極めて理にかなったものであることが医学的に証明されたと言えましよう。

が最大の原因でありますが、マスメディアによる影響も大きいと思います。野球やサッカーはテレビで放映され青少年は関心を持ち接する機会がありますが、剣道、柔道はほとんどありません。また、剣道場が昔とくらべ数が少なく日常生活の中で目にとまらなくなったことも剣道に親しみを感じなくなった理由だと思えます。

剣道は野球やサッカーのようにレクリエーションから発展したスポーツと違い、古来日本の武士が武術として修練した形式を現代化しスポーツ形式で行うものであります。従って剣道の要素の中には日本の武士が修練の目標とした徳目があり、まさしくこの徳目を学ぶことが精神生活の乱れた現代社会に於いて、最も必要であり重要なことと考えます。

また日本では一般的にどうしても学歴社会、勉強、勉強といった知育に重点を置きすぎてしまう傾向にあります。最も受入れ側の社会にも問題がありますが、ここ数年就職も学歴だけが採用の第一条件とならず、あくまで人物本位による会社が増えてまいりました。やはり知・徳・体の健全育成が大事ではないかと思えます。剣道で鍛えた心身を基盤に勉学に励み、剣道を修めて社会人になっ

た者は、それぞれの持ち場で自分の力を惜しみなく発揮し、苦難に遭遇しても強い精神力でそれを克服できるからであります。剣道は常に勝敗を競うだけでなく技術力や体力を磨くだけでもありません。精神を鍛えて自己の人間形成を図るものであります。

剣道を振興し有為な人材を輩出するには、やはり剣道の魅力を青少年に十二分に訴えることができる数多くの立派な指導者の出現が従来にも増して望まれます。剣道をこれから始めようとする人に、技術的なことだけを中心に加えて試合に勝つことだけを教えるのではなく人間としての規範を示唆することが大切です。自我意識が強い子や意欲のない子などさまざまな個性を持った子供達に愛情を持って師弟関係を築き、いわゆる「言葉が伝わる」指導者です。尊敬している大好きな人の言葉であれば青少年はしっかり耳を傾け生き生きと立派に育ちます。今後とも、会員ひとり剣道を通じて自らを修練し新しい世代を引き継ぐ青少年を育てていくことが大切な使命と感じる次第でございます。

祝 頭 彰

範士 近藤利雄 先生
教士 加藤文雄 先生

全剣連では、剣道の普及発展に努力し功労のあった方々に報いるため昨年度から功労賞・有功賞を設けて各受賞者に贈っている。

一、功労賞受賞者贈呈式は平成八年十一月十四日東京都千代田区の九段会館で開かれた。



功労賞は、わが国の剣道普及発展のため功績があり、徳操高潔な方。県では、剣道功労賞受賞者として

近藤利雄先生 八十六才
中京大学卒、愛剣連相談役
中京大学師範、剣道範士八段
居合道教士七段

が永年に亘り剣道の修練及び指導に当たり中京地区の剣道振興のため多大の功績があった。またこの間、愛知県道場連盟会長等歴任し多大の貢献があった。



県では、剣道有功賞受賞者として
加藤文雄先生 七十五才
法政大学卒、
愛剣連相談役

剣道 教士七段
居合道教士七段
永年に亘り剣道の修練及び指導に当たり、県理事長を努め、近代的組織改革を図り、県剣連の財団法人化への功績は多大であった。

なお、第一回有功賞は、
(1) 内藤正之助先生 八十九才
大府市長草町前屋敷二二
(2) 平野 洋一先生 八十五才
岡崎市上里二二四一五
の二名が受賞されている。

第26回全国中学校剣道大会

感動と感激の中で鶴中大活躍

事務局長 朝岡功雄

第二十六回全国中学校剣道大会は、「熱き剣士 一途に競え 力と技と真心と（西尾市立寺津中学校三年神谷真理）」の大会スローガンのもと西尾市総合体育館で開催された。八月二十四日二十五日の二日間の大会は、各県の代表選手として参加した八百十三名の選手の熱い心と五千人を越す応援者の熱い思いが重なり合い、関係者に大きな感動と多くの思い出を残した。

歓迎は 花・マーチング 童子太鼓・抹茶で

「全国から参集する選手・監督・役員・審判・応援者をさわやかに迎えよう」を合言葉に、西尾市としてできることをすべてするよう計画した。小学生・中学生・教職員が心を

込めて育てた花、小学生のマーチングバンド（写真1）、小学生を中核



(写真1) 小学生による歓迎演奏

とし中・高・大学生と社会人合同の童子太鼓、中学生の茶道部に茶業組合が協力した抹茶接待、鑄物組合や織物組合の支援を得て作った参加賞や歓迎ノボリ等で、大会を一段と盛り上げることができた。

矢作川賛歌の曲に乗って

「選手が感動する開会式をしたい」これが、開会式を担当した中学生と教師の思いである。中学生の吹奏楽部が演奏する「西尾市の母なる川、矢作川賛歌」の曲に乗って、瞳を輝かせ胸を張って堂々と行進する八百十三名の選手の姿は、誠に見事であった。どの子の顔も、生き生きとしており、自信が満ち溢れ、全国大会に出場できる喜びが、私たちに伝わってきた。場内を埋め尽くした応援者の拍手は、生徒代表の歓迎のあいさつや愛知県代表校の男女キャプテンの選手宣誓(写真2)で一段と高くなった。

熱気が満ち溢れた好試合の連続

鶴城中学校
女子 準優勝
男子 三位

「西尾市で行われる全国大会を、生徒のスポーツのレベルアップの機

た手紙の一文である。大会を担当した関係者の一人として誠にうれしい内容の手紙であった。

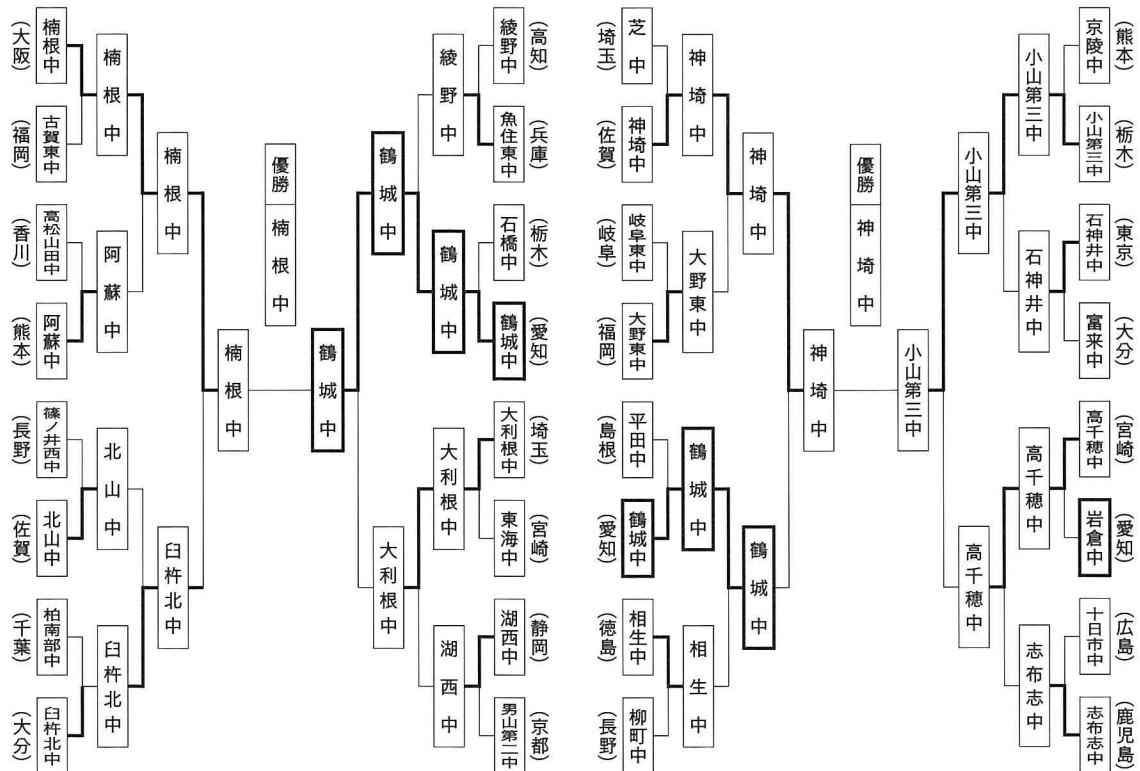
多くのご支援に感謝

大会を終えた今、心に残ることは多くの方々のご支援とご協力をいただいたことである。また、全国規模の大会の企画・運営等に携わらせていただいたことである。ご支援・ご協力をくださった皆様に心から感謝申し上げます、第二十六回全国中学校剣道大会の報告とする。



第26回全国中学校剣道大会戦績

(ベスト16)



(図2) 女子団体戦の部

(図1) 男子団体戦の部



(写真2) 選手宣誓 男子(鈴木康裕選手) 女子(澤弘子選手)

会と捕らえる」と考え、中小体育連盟を中心に地元の社会体育関係団体の支援を得た。特に、剣道については、市内全体・中学校単位で剣道連

盟の会員各位にお願いし、定期的に練習会を開催した。三年間の取り組みであったが、剣道の技能・技術の向上と世代を越えた交流ができた。

大会では、出場した四チームとも愛知県の代表校として正々堂々と戦った。特に、鶴城中学校女子は、決勝戦まで勝ち進み(図2参照)、楠根中(大阪府)と大接戦を演じた(写

真3)

*女子決勝戦

鶴城 中	2-3	楠根 中
林	コ	中島 中
浅井	メ	木村 中
神谷	コ	関本 中
神	下	増田 中
澤	メ	村山 中

また、男子においても鶴城中学校をはじめベスト四へ進み(図1参照)、神崎中(佐賀県)と好試合を展開した。

*男子準決勝戦

鶴城 中	1-2	神崎 中
山田	メ	牟田
池邊	メ	反松 永
広瀬	メ	井上 永
稲垣	メ	野田 永
鈴木	メ	佐藤 永

地元の代表校として、大きなプレッシャーの中で十二分に力を発揮した選手の皆さんの成長振りとしに心から拍手を送る。



感動の夏をありがとう

「……地区大会まで一緒に戦ったチームメイトに見送られて望んだ大会でした。おかげさまで息子は、十分力を発揮でき、すばらしい思い出と感動を胸に帰ってこれました。その中でも大会の運営には頭の下がる思いがしました。きびきびした試合はこび、お茶のサーブにいたるまで、言葉に尽くせないくらいです。すばらしい思い出と感動の夏をありがとうございました。」

これは、大会終了後個人戦に参加したある選手の保護者からいただいた



(写真3) 女子決勝戦鶴中浅井選手 木村選手の面を攻める

五大都市剣道大会 男子の部

優勝

監督 牧野武賢



五大都市（神戸、大阪、京都、横浜、名古屋）剣道大会は、毎年持ち回りで開催され、今年で四十七回を迎えました。主管は、横浜市で七月十二日（金）、国立横浜国際会議室で開会式が行なわれ、競技は十三、十四日の二日間に亘って各会場で熱戦が展開されました。剣道は、神奈川県立武道館で開催されました。試合は、今年から新たに女子も加わり男子の部と女子の部の二本立てとな

り、先鋒から三名が女子選手、六将から六名が男子選手で段位も先鋒と男子の六将、中堅が三段以下で、その他は四段以上で構成されたチームで編成され、リーグ戦方式で試合が行なわれました。名古屋市のチームの構成は、先鋒・柴田友子（名鉄パレ）次鋒・原京子（教員）七将・田中良子（主婦）六将・渡口剛（大同特殊）中堅・仲田修（教員）四将・藤嶋直也（名鉄パレ）三将・近本巧（県警）副将・勝野伸太郎（県警）大将・安保重（自営）の九名でした。一日目は、三試合を行ない第一試合は開催地横浜市と対戦、開会式直後の戦いでしたが堅さもなく落ちついた試合運びで男女とも初戦を制し第二試合目の京都戦に。京都市とは男女とも惜敗しましたが、大将戦まで息詰まる接戦の末の結果でした。三試合目は神戸市と当り男子が良く頑張り副将戦で勝負が決まり、男子の部は、名古屋市、京都市、横浜市が共に二勝一敗の成績で、次いで大

阪市が一勝一敗、神戸市が三敗の成績で一日目が終了。二日目も名古屋、京都、横浜市が順調に勝ち進み、共に三勝一敗の成績で巴戦となりましたが勝本数の差で名古屋市チームが優勝の榮譽に輝いたのです。中でも大阪戦を四対一の大差で勝ち優勝を決定づけたのです。このような形で優勝出来たことは、各人の技量もさることながら優勝を目指すチームの勢、チームワークの差の勝利だと痛感致しました。各企業からの選抜選手の意志統一を図ることは難しい面がありましたが安保重主将を中心に稽古に励み、五大都市大会優勝経験豊富な神成先生の助言など、多くの先生方のご指導の賜と思っております。過去、名古屋市は十一連勝（昭和四十八年～五十八年）をする等輝かしい実績を残しておりますが、今回の優勝は八年振りの快挙でした。最後に役員の方々はじめ、諸先生には、いろいろお世話になり心から御礼申し上げます。

なお平成九年七月十二、十三日は名古屋市が主管で、露橋スポーツセンターで開催されます。皆様方の一層のご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第27回五大都市体育大会（剣道の部）成績表

女子の部

都市名	名古屋	京都	大阪	神戸	横浜	勝数	勝者数	勝本数	順位
名古屋	△ ₂	△ ₁	△ ₂	△ ₁	△ ₁	1	4	10	4
京都	△ ₂	△ ₂	△ ₃	△ ₀	△ ₁	2	5	9	3
大阪	△ ₂	△ ₁	△ ₂	△ ₂	△ ₂	3	6	11	2
神戸	△ ₂	△ ₃	△ ₁	△ ₀	△ ₃	3	8	12	1
横浜	△ ₀	△ ₂	△ ₁	△ ₀	△ ₀	1	2	5	5

男子の部

都市名	名古屋	京都	大阪	神戸	横浜	勝数	勝者数	勝本数	順位
名古屋	△ ₂	△ ₄	△ ₈	△ ₈	△ ₅	3	13	27	1
京都	△ ₂	△ ₇	△ ₇	△ ₈	△ ₀	3	9	22	3
大阪	△ ₃	△ ₃	△ ₆	△ ₄	△ ₃	2	11	19	4
神戸	△ ₂	△ ₂	△ ₁	△ ₁	△ ₀	0	4	12	5
横浜	△ ₁	△ ₅	△ ₅	△ ₅	△ ₃	3	10	18	2

高段者合格への道

八段合格への道

教士八段

近藤 勁助



この度超難関、八段審査会を突破致しました。諸先生諸先輩を始め、ご交誼頂いてきました皆様方のご指導の賜と、心から深く感謝申し上げます。さて、七段を取得いたしました二十七年間、少年剣道の指導に専念、ナオリ剣道教室を筆頭に四道場、毎日が少年との基本稽古でした。又この間に早く出

向いては、全日本居合の稽古を、居合により私の剣道が少しずつ変わってきた感じが致しました。刀での切り付け、姿勢、足はこび、そして竹刀の握り方、基本に則り、自分の剣道が確立したつもりでした。初めての八段予備審査は不合格、それから審査に対しての稽古にはいりました。次の年もその次の年も不合格・・・「剣道は五十歳からが本当の剣道だ」と父に言われ、道場で、車の中で、剣道が頭から離れませんでした。そしてある年より週一回中京大学の剣道場に行き父と、そして、林先生、堀山先生との実の有る稽古、研究、それぞれ思ったことを遠慮なく、指摘していました。又居合の稽古会の前には父との剣道の稽古、父の言うのには「立派な相手との稽古をして立派な鏡で自分を映しだせ」と、剣道だからこそ八十歳の父と五十歳の息子との親子の稽古ができました。有難いことだと思えます。そして愛知県警の勝股寿彦先生、機動隊の皆さんとの稽古と機会あれば、どこで

も稽古をする努力をいたしました。それと常に高段の先生の見取り稽古に心掛けました。理合に法り、段階的な練習を積んで技術を会得し体力を増進し胆力を練り、心身の妙境を体得する努力も致しました。審査員をはじめ、人々の胸に訴える何かがなければならぬ。その一つに、攻めが有る。立ち合って、気攻めのないう剣道は見えて退屈する、敵の力を殺し、業を殺す、気を殺すことを、三殺法として、教えられています。また剣道には、攻めることありて、受けるも防ぐもなきものとも教えられ、常に先を懸けんことを心掛けて、立合えば、直ちに打つぞ突くぞ、という気になることが大事だと思えます。相撲でも、立合いが大切です。立ち上がって、「さあこい」、「さあいらっしやい」というよりも「さあ撃つぞ」「さあ突くぞ」という気持ちの方が大切のように思われます。それでこそ敵の刀を殺し業を殺し「先」がとれるのだと思えます。焦らず気が後れせず、相手の剣を殺し業を殺し先をとり、相手を動揺させ体制を崩したところに、隙を見出し機会を逃がさず、捨て身の打突を試みてこそ人の心に響く剣道として評価されるのではないかと思います。その他、

服装、礼法、構え、柄の握り方、特に左手、右手の握りと位置残心基本にそって注意を怠らず、修練を積み十分な自信を身につけることが大事だと思えます。私の大きな自信になったのは、第二十六回中堅指導者講習に奈良の柳生に派遣され、又第二十八回東日本剣道中央講習会、七段八段の先生方との講習会、そして、毎年八段受審者のため、愛知県剣道連盟の先生方とのこもった講習会、明治村大会の数多くの最高の先生方との稽古等、自分を見直す絶好の機会でした。このような機会を与えて下さいます。今回の八段審査を突破できたのだと思えます。幸いにして幾多の諸先生、諸輩、後輩と周りに恵まれ、剣縁の有り難き幸せを噛みしめています。今後自分の剣道修業は勿論でございますが、後輩指導、剣道連盟の少しも、礎になるよう師弟同行の精神を忘れずに、生涯剣道に励む所存でございます。

七段を卒業、八段に入学、何卒倍回の御教導のほど幾重にも御願ひ申し上げます。

皆様のご健勝をお祈り申し上げますと共に、お礼少々ご挨拶申し上げます。

六段合格の喜び

錬士六段

石原 たまみ



「六段」への最初の挑戦は、平成七年の十一月、東京でした。足の怪我で三年近く剣道から遠ざかっていたので、なかなか稽古をはじめめる勇気が湧かなかったのですが、この審査を受験することで、ようやく踏み切りが付き、稽古を再開することができました。結果は不合格ではありませんでしたが、このときは剣道のできるようになった自分に満足していました。そして、そのまま稽古を続けて来年また挑戦しようと思いが湧いてきました。

私が「六段」を初めて意識したのは、大学生のときでした。女性で数名の方が「六段」に合格され、その中のお一人が何度か稽古をお願いしたことがある方でした。当時は女性で「六段」の方は全国でも十人に満たない人数であったため、目標というよりも憧れであり、いつか私もその先生のようになりたいたいと思つたことがきっかけでした。ですから、五段に合格したときは、合格した喜びよりも「六段」を受験できる段までになれたということのほうがうれしく「十年あればなんとか受かるかな」と、まだ五年先でないと思験資格がないのに、そんなことまで考えてい

二度目の挑戦は、昨年五月の名古屋での審査でした。年度始めで仕事が忙しかったことを理由に稽古が疎かになってしまい、審査を受けることをやめようかと考えていました。するとそこへ、タイミングよく父から電話があり「今度の昇段審査は、知り合いの人も行くし、おまえもやるから見に行く」と言うのです。私が、受験をやめることにしたと伝えると、せっかく受験料を払つたのだから受けるだけ受けてみてはと言われ、気はのりませんでした。とりあえず受験することにしました。しかし気が乗らないときの昇段審査は、やはり最悪の内容でした。約一分の

時間の中で自分を表現するわけですから、集中しなければいけないわけありません。受験すると決めた時点で気持ちを切り替えるべきであったと、深く反省しました。三度目は、八月の福岡県でした。旅費がかかるからこの次の機会にしようかとも思つたのですが、なるべく間をおかないように受験したほうがいいと聞いていたので、申し込むことにしました。また福岡県には友人もいましたし、試合で何度か訪れたこともある思い出の土地でもあったので、久しぶりに行ってみたくなつたというのも理由の一つでした。昇段審査も三度目でしたから、雰囲気もだいたいわかっていましたし、なによりも簡単に合格できないということをも身を持って体験していったから、一度目、二度目に比べますと気楽にと言えますか、開き直つて受験することができました。また今回は審査に出掛ける前に、先輩からアドバイスをいただきました。「攻めを大事にすること」「間合いが深くならないこと」「この二つです。あまり難しく考えると悩んでしまひそうでしたので、こう解釈することにしました。」実技審査は、わずかな時間であるので、つい打ち急ぎが

ちになつてしまふから、攻めや間合いが意識できれば落ちついてやれるということだな」と。さて肝心な実技審査の内容ですが、どんな場面でもう打つたなどはあまり覚えていません。ただ攻めと間合いのことはずつと頭から離れなかつたことを今でもしっかりと覚えているので、かなり落ちついてやれたのではないかと思つています。友人と雑談しながら実技審査の合格発表を待ちましたが、かえつてこのときのほうが緊張してはたらいでした。そしていよいよ発表のときがきました。合格者の番号の中に自分の番号を見つけたときは、本当にうれしく思わずガッツポーズをとつてしまいました。それから日本剣道形と学科の審査に合格し、私は憧れの「六段」になることができました。

杯でした。そして、教え子達からの祝福を受けたとき初めて「六段の重み」を感じました。その重みとは何か、言葉でどう表現したらよいかわからないのですが、とにかくもつと

もつと頑張らなくてはと思つたのです。これからは、その重みを心の支えにして精進を積み重ねることで、また新たな自分に出会えるのではないかと思つています。

高齢化社会と剣道

小林 肇

師走の街には、「スピーカー」から、「二等賞。大当り。」の音が流れ、ともに、かくにも、一九九六年も暮れようとしています。

次に待つ、一九九七年の扉は、何色なのか、万感胸に迫るものを感じます。

何色の扉か、押せ押せ、初明り、中学時代、小牧山を背に、亡萩尾孝之先生に、剣道の手ほどきをうけ、依頼、二十代は、軍隊に。そして、サイパン島要員になり、出発寸前にサイパンが陥落し、終戦を迎えました。

切れそうな、剣道の糸も何とか繋がり、戦後の食糧難にも、亡母の精神的、物質的な愛により、栄養失調にもならず、金銭や、物質への欠乏

感にも耐え、バブルの波に乗り、また、バブルの爆ぜた今に到達しました。

この道を、共に励まされ、励まされた。この道を、共に励まされ、励まされた。この道を、共に励まされ、励まされた。

剣の道 行きつ戻りつ 秋茜 その先輩、同僚も、一人、二人と数が減つて参りましたが、大正、昭和、平成と歩んだ「剣の道」には、それなりの重みがあり、また、その重みは、体験した者への糧となり、光となり、これから進む高齢化社会の道を照らしつづけると信じております。

そして、何度も切れそうになり、繋ぎ続けてきたこの糸を、少しでも

現代の青少年に、繋ぐことの出来るよう、努力するのが、今の私達に果せられた道であると思ひます。

今の青少年と、私共との間に、剣道に対する考えに温度差のある事は当然と思ひます。

核家族になり、物資も溢れ、豊かな環境で育つた青少年達でも、私共の背に、ほんの一筋でも、剣道の何かを感じ取れたら、今迄繋いで来たこの糸も喜びの光となり、私共の背を温かく包んでくれると思ひます。

中学に入学し、バスケットに夢中の孫が、バスケット部に入れなかつたからだと思ひますが、剣道部に入りました。

そして今では、指導される先生の御蔭で、ピテオ迄持ち出し、試合の研究やら、技の研究までするようになりしました。

息子や、私の背に多少なりとも、光があつたのかな...と思ひました。竹刀の声 三代の声 山が澄む 何時、この剣道を挫折するかも知れないこの若者を、遠く、近く、見守つてやるのが、私共先輩としての役目だと思ひ、今日に到つた喜びを痛感しております。



道場で稽古をされる先生は、喘息で大変苦しうにしておられました。少し稽古をされては、着座され、また稽古をされる。その御努力の為、見事喘息を克服されました。これから私共高齢者の学ぶべき健康管理のお手本だと思ひます。自分の体力の限界を維持した剣道を求め、その中に次の世代へバトンタッチする何かを伝え、皆で喜びを分かち合うことが出来ればと思ひます。

長い様で短かつたこの剣道の道で、知らぬ間に、高齢化社会の真只中に立ち、時代を背負う若者と剣を交え、また高齢の中、別に持病もなくこの道を歩いて行く事の出来る日々、感謝せずにはおられません。

剣研ぐ 道の彼方に 泉あり 泉を求めて、これからも、若者の道しるべとなるように、歩んで行きたいと思ひます。

「開会式での名古屋チーム」

木本三夫

ねんりんピック'96宮崎大会

一、緒論

ねんりんピックと云う耳なれない言葉、来年は先年の団体と同様、愛知県開催予定で第十一回を数える。六十才以上のお年寄りが剣道のみならず、テニス、ゲートボールに始まり、将棋、碁の類まで二十二種目を、県及び政令都市の代表約六十チームが、技を競う国家的イベントである。同時に協賛イベントが四十種もあり、正式名は全国健康福祉祭と称する。愛知県は団体と同様に県下各地で催されるが、剣道は西尾市に決定している。県、市剣道連盟も来年の地元優勝を期して力を入れ、今回の九州宮崎の大会も選手選抜に力を入れて、好成績を期待した。

二、地元の歓迎

朝まだ暗い内にテレビ塔下集った名古屋チームは、各種競技にバス二台に分乗し名古屋空港に向う。名古屋発宮崎行便は、殆どが選手団で占められていた。一時間余の飛行

で宮崎空港に到着、驚いたことに空港前の広場には、幼幼稚園児を始め地元歓迎団が、手に旗をもち、私達名古屋チームの到着を待っていたのだ。花束の贈呈、受入れ挨拶、園児の歓迎の歌等、地元の熱意ある態勢には感激させられた。

選手は各ホテルに分宿、私達剣道チームは青島海岸、青島パームビーチホテルに入る。ホテルは設備と云い、ロケーションと云い十分満足できる立派なもので、もう一度ゆっくりしてみたいと思わしめた。暇をつくりチーム皆で、すぐ前の青島海岸一帯を散歩し、緊張感をほぐし明後日の決戦にそなえた。ついでに剣に由来する鶴戸神宮迄足を伸ばし、戦勝を祈る。

三、開会式

次の日開会式は常陸宮様御臨席のもと、団体よりも立派とも思える規模で、宮崎公園総合グラウンドにて催された。会場一帯は、各種イベントが所狭しと催され、見るもの聞くもの地元の努力がひしひしと感ぜられる。



る。オリンピックのように灯台に、若者が走り上り、点火、ファンファーレで開会式は始まった。高校生のマスタゲームは、神々の土地の物語を、グラウンド一杯に表現し、華やかなムードを盛り上げた。次に選手団行進に移り、各県別に糸乱れず行進する。選手の打振る県花しょうぶの波、或いはハンカチをふるチーム、各チームさまざまな表現で開会式は幕を閉じた。

四、剣道会場

剣道の会場は高千穂。バスで四時間もある遠隔地。宿舎に着いたのは夜の七時すぎ、一杯入れて床についていた。開会式の次の日、早期から会場は準備十分、天幕を張り受け付け数人立

本取られ、胴で取返し、出てくる所を押え小手にて二勝目を得る。副将木本調子よく、小手にて一本勝ち三勝目をとる。大将水野ひき小手を打ち、明日のトーナメントに駒を進める。

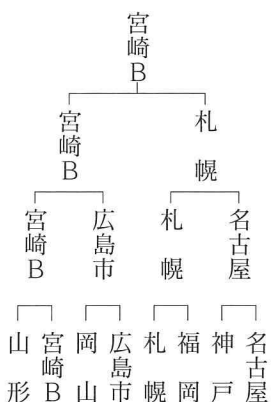
かこれに勝てば入賞である。先鋒荒木、奮戦するも、逆胴の後の面、出小手と二本取られる。次鋒奥田も出面の一本負け、中堅山本には後がない。出小手をとられて、取り返しに出たが時間切れ。残念入賞を逃がす。副将木本、出小手一本、引き面で取り返されたが、勝負に出て引き面で勝つ。大将水野、引分け。

- ◎名古屋 3-0 奈良 良
- ◎荒木 メメ — メ 樫内
- ◎奥田 × 辰巳
- ◎山本 ドコ — メ 中谷
- ◎木本 コ — — 岩佐
- ◎水野 コ × メ 奥田

- ◎二日目はトーナメントに勝ち残り十六チーム、会場も昨日に比べると大分静かになった。始めは神戸チームとの対戦、二日目にもなると、選手のレベルは大いに上る。先鋒荒木、次鋒奥田、頑張るも両者とも引分け。中堅山本見事な出小手で一本勝ち、副将木本に托され、ひき面の一本勝ちで、ベストエイトに進出する。

- ◎名古屋 2-1 神戸
- ◎荒木 × 東
- ◎奥田 × 広岡
- ◎山本 コ — 魚谷
- ◎木本 メ — 樋田
- ◎水野 — — メメ高 嶋◎

準決勝の相手は札幌であり、何と



六、参考に

ねんりんピック出場選手は、六十

才以上の高齢者であるが、その試合を拝見すると、見事な竹刀さばき、その瞬間的反発力も早い。若手と竹刀を交えても、見劣りも殆どない。他の運動では考えられない年齢差でも、全く互角に戦えられる。その理由を考えてみる。剣道の全日本選手権に出場している選手をみると、その九割以上が警察官特練生である。同様なことを柔道でみると、特練が三割に満たない。この結果より考えると、警察の特練生は、一般の選手と何処が異なるかと言うと、それは唯一つ、練習量が一般より、確実に多いと言うことである。全日本の柔道は、一般人が警官より多く七割も占めていると言うことは、柔道では練習量と同様、選手の体格及び素質が大きく影響すると考えてよい。この点剣道は、他の要因より練習量の要因が決定的と考えられる。

老人は耐力、瞬発力等が年と共に確実に落ちてきても、練習力が大きく影響するので、その年齢になるまでに打ってきた、練習量の積算が物を言うことになる。この現象が老人でも結構他の運動と異なり、道場で上手に位置しても、若手に対し練習が五分にできる要因があると思われ

並ぶ。各チームはサブ道場で練習に余念なく、熱心な者は調整に努力している。入場式をマーチにあわせて一巡し、主催者側の歓迎の辨、選手宣誓が終わると競技に入った。

五、名古屋チーム

第一戦は栃木県との対戦となる。先鋒荒木、始め面一本取られるも、すぐ鏢せりから面を取り返す。更に相手が出てくる所を押え小手でまず一勝をもたらす。次鋒奥田、調子悪くなかなか極め技もなく、面を取られて時間切れ、中堅山本も始め面を取られも、面を二本取り返して二勝目を得て次につなぐ。副将木本、立上りすぐ小手より面にて一本を取り、出てくる所を小手に押え、名古屋チームに第一戦をもたらす。大将水野、面一本勝ちで栃木を4-1で下す。

- ◎名古屋 4-1 栃木
- ◎荒木 メコ — メ 村田
- ◎奥田 — — メ 亀和田◎
- ◎山本 メメ — ド 阿部
- ◎木本 メコ — 青木
- ◎水野 メ — 加藤

午後からの第二戦は奈良県である。第一戦と同様先鋒荒木、出ばなの面で取られた後、小手から面と、ひき面で取返す。次鋒奥田は引分け、中堅山本につなぐ、山本は引き面で一

国は生涯学習を奨励し、老人ボケを防ぐ法を示しているが、生涯スポーツの種は定めてない。

健康な老人をつくり、老人に生きがいを与える運動としては、剣道ほどよいものはない。年でも若者と五分以上に戦い、併せてスポーツより傷害は非常に少ない。

生涯スポーツを地で行く例がある。昔の八高(第八高等学校・名大の前身)の剣道部の練習が月一回行われ、既に二十年余も続いている。剣道の友人のゲストの方にも協力して頂いている。昨年この会より七十七才三人チーム(村瀬・伊藤・山本の諸氏が京都武徳殿で行われた全国大会で、見事優勝を果たした。こんなことは、他のスポーツでは全くみることが出来ないことである。

ねんりんピックが来年は愛知県で催されるに当り、

生涯スポーツとして剣道を

「年までできて怪我の少ない運動」とアピールして行きたいと思っています。又西三河剣道連盟と西尾市剣道連盟の皆様にご厄介になり、盛大に「ねんりんピック愛知の剣道大会」が催されることを祈ります。

私と剣道

荒木 良信

僕は、生まれたときの事故により右手が不自由になってしまった。いろいろな訓練をしてきた。まだ、小さな子供の時から、いろいろな訓練をしてきた。ある時、僕の通っていた大病院の方から、「剣道をやってみてはどうか？」と、いうアドバイスをうけた。これが、「僕」と「剣道」との最初の出会いだった。

そして、小学校三年生になった春の事、僕は近くの「東丘少年剣友会」という道場に通う事になった。しかし、当時の僕は、小学三年生という、小さな体、そして幼い精神だった。あまりのつらさに、「いきたくない。」という気持ちが出た。強くなつていき、毎回、練習時間になるまでが親との戦争であったことも覚えている。

そんな僕が、今まで剣道が続けてこられたのは、同じ道場でともに剣

道を学び、そして同じつらさ、同じ喜びを感じてきた、多くの仲間がいたこと、そしてなによりも、良い先生に出会えた事だと思ふ。僕のまわりにいる、これらの人々は、とてもいい人たちばかりだ。そんな人々にめぐり会えた僕は、幸せだといつても過言ではないだろう。しかし、「剣道」というのになんか変な感じがした。それは、小学六年になった頃のことだった。「右手によい剣道」から「勝つための剣道」に変わったのだ。やはり練習しているからには強くなりたい。強くなつて試合にも勝ちたい。と思うようになった。そこで、「中段」から、「左上段」にかまえが変わった。当時の目的とは大きく変わってしまったが、それはそれで後悔はしていない。この時の僕がいなければ、今の僕がいなかった。それから、僕の「片手の剣道」が始まった。想像していたのとはかなり違い、とてもつらく厳しいものだった。「うまくなりたい」という意志だけが心の支えになっていたのだと思う。「剣道」に出会ったことで、これからの僕がどうなっていくのだろうか

か？ それは誰にもわからない。もちろん僕自身にも。だから、それを見つめるためにも、僕は、「剣の道」を学んでいきたい。

全日本少年剣道錬成大会
優勝への道

秀正館 山本翔平
西尾市下町鳥居前
西野町小学校6年

三月二十四日曜日、ついに第二十一回全日本選抜少年剣道個人錬成大会のキップを手にすることができました。この大会に出場することを、僕は、小さな時から目標に頑張ってきました。七月三十一日の全国大会に向けて、今まで以上に稽古にはげみました。四月の県の団体戦では、全国大会出場を果たすことができなくなりました。稽古だけではなく、朝早く起きて、素振りもしました。だんだん試合の日がちかちかしてくると心ぞうがドキドキし又早く試合がしたいという気持ちでいっぱいでした。全国各

道場には、同じ道場でともに剣道を学び、そして同じつらさ、同じ喜びを感じてきた、多くの仲間がいたこと、そしてなによりも、良い先生に出会えた事だと思ふ。僕のまわりにいる、これらの人々は、とてもいい人たちばかりだ。そんな人々にめぐり会えた僕は、幸せだといつても過言ではないだろう。しかし、「剣道」というのになんか変な感じがした。それは、小学六年になった頃のことだった。「右手によい剣道」から「勝つための剣道」に変わったのだ。やはり練習しているからには強くなりたい。強くなつて試合にも勝ちたい。と思うようになった。そこで、「中段」から、「左上段」にかまえが変わった。当時の目的とは大きく変わってしまったが、それはそれで後悔はしていない。この時の僕がいなければ、今の僕がいなかった。それから、僕の「片手の剣道」が始まった。想像していたのとはかなり違い、とてもつらく厳しいものだった。「うまくなりたい」という意志だけが心の支えになっていたのだと思う。「剣道」に出会ったことで、これからの僕がどうなっていくのだろうか

私と子供と剣道

城野 真理子

「今日の稽古は一生懸命やっつてなかったでしょ、気が入っていない！やる気あるの？中途半端な剣道をするならやめなさい。」と二人の我が子に喝を入れます。我が家の夕食は、こんな会話から始まることが多い。今日の我が子は、どう鼻肩目に見てもやる気があったとは言えません。そして、夕食の惣菜を掴むはずの箸が竹刀へと変わります。

思い起こせば中学時代、初めて剣道を見て、何とも言えぬ熱い感動を覚えました。それ以来、頭の片隅にいつも剣道がありました。もし男の子が生まれたら、ぜひたい剣道をやらせようと決心。そして、長男五才の春、念願の剣道教室へ入門。続いて二才下の長女、ちよつと渋る顔を見て「赤い胴をつけるとかわいいのよ。お母さん、その姿をみたいよ。」と煽って入門。そして、学生の頃の感動を蘇らせようと三十六才秋、私は不安と期待を胸に剣道を始めました。剣道は「礼に始まり礼に終わる」の言葉通り、今、人間として忘れかけ

県から選抜されてきた選手たちなので日頃の稽古の成果を出し自分の剣道をするを目標にしました。この大会に出場することを夢みてきたので、できれば優勝したいと思ひました。七月二十七日には剣道連盟主催の基本試合では、苦戦した時もみんなでカバーし三年ぶり四回目の優秀賞でいい気分分で全国大会に行けそうな気もしました。試合の日は一人だけではなく、中学生の人たちが試合をするのでずつとついていく。とても心強いものがありました。旅館でねる時にみんながきをつけてくれて、しずかにしてくれて、とてもうれしくなり、絶対がんばろうって気持ちになりました。試合当日、修武館の吉武君といつしよに開会式にでました。試合の時、吉武君が先に試合をして勝ち、ぼくも勝ちたいと思ひました。延長を二回くらいやっつてメンがきまりうれしかった。勢いのつたのか二回戦も勝つて、あと一つ勝てば準々決勝に進出できます。負けたくない、勝ちたいという思いがつうじたのか勝つて、自分でも思つてもみなかった準々決勝でした。相手は一度やったことのある如水館の鷲見君でした。コテが入った時合議ではいったかどうか心配でした。だ

ている礼儀や精神と肉体の鍛錬を教えてください。これらを、我が子に託す母親曰く、辛く苦しいこともあけるけれど、一度始めたからには途中で投げ出すな。やるからには、半端な根性でやるな。そして強くなれ、頂点をめざせと、説教はしているものの実際やってみると竹刀は面にも小手にもまともに当たれません。足は纏れ、腰は砕けの情け無い姿です。頭ではわかっていても体がついていきません。子供の気持ちがよくわかります。けれど母親には、子供に弱さを見せられない意地があります。負けるものと半年後、一級を取得、勢いに乗って初段を取得、やればやるほど奥深く迷い込んでゆく剣道。二段なんてとんでもないと、やや消極的にもなります。わが子に説教をするからには、私が態度で示さなければ納得しないであろうと、家事の合間に素振りをし、体力作りにと腕立て伏せ、できる時間内の稽古を積み、時には胴着のまま食事の仕度をすることもありました。そして一年後、汗と涙と意地で二段を取得しました。若くもなければうまくありません。ただ教えていたこと、を無我夢中で稽古し、精一杯練習したという自信をもって試験に望んだ

気持ち、我が子はわかってくれるでしょう。自分が浮かんで来たことが、先生の言われんとすることや子供の癖などが段々わかってきます。だから、先生の指摘されることをなんとか理解させようと必死になつてしまします。我が子にとっては、家に帰つても口うるさい先生が居ると思つてのことでしょう。先生の熱心なご指導とは裏腹に、一向に強くなる気配のない兄は、試合でも一回戦負けと弱いものでした。それに反して優勝の二文字を積み重ねていく妹。この差をどうしたらよいのか、始めた頃はこの問題など頭にあろうはずがありませんでした。妹に負けて悔し泣きする兄に、私は努力あるのみとしか言えません。努力をすれば必ず結果はでるからがんばれと、暑い日も寒い日も休むことなく毎日稽古し、時には怒り、時には叩き、胴着のまま走つて帰らせたこともありました。こんなにながらばつていて兄を不敏と涙したこともあり。しかし同情すればこの子はここで止まってしまうかも。剣道をやる以上ぎりぎりの限界の中で勝利する喜び、そして一瞬のスキも許さない集中力と限界に挑戦する忍耐力、ここぞと

打ち出す技、すなわち、氣剣体が備わった時の決めの一本の快感を知ってほしいのです。そんな想いが我が子に對し厳しさを増します。

長女四年生の夏、愛知県女子選手権低学年で優勝。この時「私が強くなったのは、お兄ちゃんのおかげでもあるね。」とひと言。ああ、この子は兄の努力をわかっているな、と感じました。二人に同じようにがんばってほしい気持ちち言うまでもありません。兄ががんばるから妹はついていくのです。お互いが切磋琢磨しているのです。幾つかの試合を経験することにベスト8、三位、準優勝と少しずつ成果が現れました。

長男六年生の秋、市民スポーツデーにて初優勝。この日は、親子にとつて忘れられない日となり、一回り大きくなつてたくましく感じられた兄に心から拍手を贈りました。その直後の試合で、二人は私にW優勝をプレゼントしてくれたのです。

剣道を通じて親子の会話は跡切れることはありません。次の目標に向かいまだ試練は続きます。それでも剣道が好きという我が子を応援し続けます。そして二人は日本一を目指し、私は三段を目指して、日々努力していくことでしょう。

「無論、そんな心配は無用だが、もし“やれ”と言われたら困るなあ」とアトランタ五輪をテレビを見ながら勝手に思っていたのは、ある種の競技の審判である。例えば、飛び込み。入水の際の水しぶきの大きさが問題で、スポツが良く、ポチャーンがダメ、という程度は分かる。しかしこのスポツとあのスポツでは？もうお手上げだ。シンクロや体操もそう。タイムとかゴール数とか、勝負の判定に計量的要素がなく、誰が見ても勝負が分かる、という競技ではない。柔道もある部分しかり。「有効」か「効果」かといった見分けや「優勢」の判定はやつかいだ。自分の「印象」が選手の命運を決めると思うと、つらい。計量的競技であっても、例えば幅跳びで踏切りのフェウルを見張る審判、あれも願ひ下げにしたい。いかつい選手たちの祈るような視線に射られる中で会心の跳躍に“死刑宣告”の赤旗を上げる。シビアな役回りである。「佳」と掲載されていた。五輪というからには、各国代表の優秀な審判が派遣されていると思うが、競技する選手は、国を背負って、またさまざまな条件のもとに精一杯活躍していると思う。目耳録に記されているように審判の「印象」が選手の命運を決める……

最後に手取り足取り、根気よく御指導下さいました先生と何も言わず見守ってくれる主人に心から感謝致します。私にとつて剣道とは親子の絆なのです。

女性と剣道

尾張地区 重松 ミチ子

「美容と健康のために、女性剣道でよい汗を流してみないって」呼びかけたのが今から十四年前になります。これに賛同し集った主婦數十人、しかし練習場所に苦慮しましたが、なんとか団地近くの廃家を気持よく貸していただいたお陰で、定期的に世間話を交し稽古することができました。そして活動を続けること十五年、これからは益々女性剣道発展のため会員一同力を合わせて剣道の理念にそつて細く長くガンバツテ参りたいと存じます。

女性剣道発展の一助となるかもしれない問題点について列記して見ようと思います。

その一に家庭との両立の問題があります。会員にはその過半数が主婦で構成されています。そのため家庭内を守る主婦にとつて剣道を続けるための「時間の確保」「経済的問題」

「健康問題」であります。どれか一つ欠けても継続が困難になりかねません。特に心配されるのが功をあげることに起因する怪我があります。怪我にもありますが一度怪我で剣道を遠のくと家庭と両立の関係により復帰するのに日時がかかります。功をあせらず稽古の後の茶話会を楽しみに、指導者の諸々の先生には申し訳なく存じます。稽古をつづけたいものです。

その二に男女の体力及び身体的な相異の問題であります。

女性には子供を育むために男子とは根本的に身体の相異点があります。女性には女性特有の動きがあり体力があり、男性には持合せのない特性を剣道の中で見出し成長させていくことも大切なものの一つであります。

その三に階級・組織・人間関係の問題であります。剣道には日本武道としての歴史も深く、精進面が重視されます。あまりスポーツ性つまりゲーム性、娯楽性が軽視されるため楽しさが誤解される場合もあります。段位制度がとり入れられそれを取得するために、工夫を凝らした努力が続けられています。

高段位への希望は人間本来の欲望であります。美容と健康のため集まった仲間作りの会員を分別、崩

さんし誤りのない判定をするよう努力したいものです。敗者の身になつて。

文献紹介

源 了圓 著

三一四頁

発行 創文社

二五七五円

日本の文化、その中でも特に芸道・武道を考える時、「型」は切り離すことができない。

わたくしたちは、最も美しい動きと同時に効率的な究極の打突を求め、身体の反復練習を日々行っている。

本書は、剣道における「型」も含めて、さまざまな視点で「型」について述べられている。

主な内容は、

第一章 「型」とは何か

第二章 「型」の歴史—古代・中世における「身」と「こころ」と「わざ」の思想

第三章 世阿弥の能楽理論における「型」の問題

第四章 剣法論に見られる「型」

第五章 「型」と稽古—「型」と日本人との交わりの心

結び 「型」における心

(H・N)

壊させることなく精進面、社会面教育、修業を大切に、これからは県内、県外を問わず機会あることに女性交流会の場を広げて行きたいと願ってやみません。

女性同志でいろんな仲間の方達と世間話に花を咲かせて、剣道をやつていて良かったなと心から思えたら、人生最高だと思えます。

まだまだこれから女性剣士をどんどんふやしたいと願っております。

社会の人口形態の変化から少子現象が著しく剣道人口も激減している現状です。女性の立場から真剣にこの現状を受け止め、このすばらしい剣道を継続維持発展させるための努力と、女性らしい特性を生かした剣道の修業に励み仲間の和と美容と健康作りに明日も汗します。

審判

田中 弘

アトランタ五輪も幕を閉じ、女子マソンの有森選手の笑顔がテレビの画面を賑わしているおり、中日新聞の目耳録に「審判」の記事が掲載された。読んでいるうちに審判の重要性、むつかしさ、恐ろしさを痛感させられた。その記事を紹介すると

居合修行・慈忍の心で

居合範士八段 秋田 森治

「剣の道」を求めて六十年。私は、戦後剣道に精進し、五段挑戦中に病に倒れ入院。医師の忠告で中止し、居合道一本に切り替えた。以後、精進に精進を重ねて、全日本居合道大会にも連続出場、地方大会では最優秀賞を受けたこともある。

私は、「慈忍」という言葉が好きである。これは、尾張の七代藩主、徳川宗春の政治のモットーで「慈」は太陽の如く隅々まで照らすように「忍」は月の如く静かに心を満たすようにと、本来の仏教用語の訓えに藩政の理想を託したものである。居合は、一人で仮想の敵に對し、敵心を察しながら静から動へと展開していく。しかし奥底には「慈忍」の心がなくてはならない。つまり私の内では、「慈忍」の心こそが居合修行の心と考えている。足腰を鍛え、いつ、いかなる瞬間にも、その変化に応じられる身体をつくる。そして技を磨き、心を錬り鍛えていく。居合は精神を集中できるのが大きな魅力で、年をとつても毎日の鍛錬と節制を欠かさなければ、まだまだ第一線で頑張れると自負している。

第二十二回 N T T グループ

全国剣道大会を終えて

教士七段 久保 多加史

平成八年九月二十二日、十年ぶり三回目の N T T グループ全国剣道大会が(財)愛知県剣道連盟の後援により名古屋市露橋スポーツセンターで開催されました。電電公社から N T T に変わり十余年の歳月が流れ、グループ化が進み平成七年の広島大会から N T T グループ全国剣道大会と名称を変更し二回目の大会でした。

前回の名古屋大会では、団体戦は男子しか有りませんでした。近年女子剣士の増加により五年程前から女子の団体戦も開催する運びとなりました。なお、現在 N T T グループ全国剣道連盟の会員は、約一五〇〇名を数え、全国各地で活躍し、日本選手権、国体、都道府県対抗等の代表となり、各地の実業団大会及び全日本実業団大会での上位入賞等、近年輝かしい成績を収めています。そのような、強豪が東海を中心、名古屋の地に一堂に会し、総勢、選手役員を含め約六〇〇名の過去最高の参加人数で開催されました。

平成八年三月の総会で準備、選手強化のスケジュールを発表し、全員の意志統一を図り、大会の準備に取りかかりました。会場及び審判員の確保等、(財)愛知県剣道連盟の諸先生にお世話になり、また、経費についても予算書を立案し上司に相談し全国規模の大会の偉大さを痛感するとともに諸々の行事が円滑に流れることが心配でした。

まず演武、日本剣道形の問題でした。女性二人で小木曾三段と家田三段と決まり、二人そろう時間が少なく、抜刀、納刀がなかなかうまくいかず、如何にスムーズにできるか二人が涙を流しながらの何回も何回もの練習に立会い、九月初旬にあわせた時は、上手にできるようになり彼女等の努力に感心しました。

さあ、いよいよ大会です。開会式が始まりました。日本剣道形と演武する二人は入場行進の始まる前から緊張のいろは隠せません。同じように私も緊張し、失敗の無いことを祈る

気持ちで一杯でした。日本剣道形が終了と同時に会場一杯の大きな拍手がおこり「よかった」と感じると何か演武者二人と共に涙ぐんでしまいました。先輩の先生方から「剣道形、非常によかったよ」とお褒めの言葉を頂き、自分のことのように大変うれしく思いました。

試合はまず、団体戦の男子女子同時に進行し準々決勝まで行われ、その後個人戦決勝までを各コートにて実施しました。

準々決勝では、男子は東京チームと対戦五対〇と圧勝し、女子は、A チームが東京 B チームを破り決勝進出を果しました。続いて行われた個人戦では、特に女子の活躍が目ざましいものがありました。N T T 全国大会五連破中の東京桂選手を破った、同じ東京の渡辺選手を東海新人の地福真紀子選手が鮮やかに小手をきめ、決勝進出を、また一方のゾーンから東海新人の小木曾香選手が決勝進出を果たし、東海勢同志の決勝戦となり、これは N T T 全国大会始めて以来の快挙でした。

女子団体は、予想どおり東京 A と東海 A の決勝戦となり伯仲した試合で惜しくも二対〇で準優勝となりました。男子団体戦においては、常勝

東京 A チームを破り勢いに乗った四国 A チームと対戦。その四国を辛くも二対一で退け十年ぶりの決勝進出を果しました。決勝は、先の三十二回全日本実業団剣道大会三位の関東 A チームとの戦いとなり、初の優勝を目指す東海にとっては不足のない相手でした。先鋒、次鋒引き分け、中堅二本負け、副将引き分けとなり大将戦次第では、代表戦となる様相で大会参加者、東海のメンバーの全員が見守るなか、関東小日向選手的面が決まり、焦る東海の松岡が打って出る所小手が決まり〇対二で惜敗し初優勝は逃したものの堂々の準優勝でした。

本大会を通じ私なりに感じた事は、いつも試合の裏方のご苦労と、特に審判員の任務の重要性を再認識いたしました。大会終了後、各地方の大会参加者から東海での大会は、内容運営について大変良かったと好評を頂き事務局として大変嬉しく感じました。

最後になりましたが、本大会の開催にあたり、ご尽力いただいた(財)愛知県剣道連盟並びに審判長審判員の諸先生方に深く感謝するとともに、今後とも N T T 東海剣道連盟に対し、一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

よろしくお願いいたします。

第29回 N T T グループ全国剣道大会

結果 (関係分のみ)

男子団体戦 (51チーム参加)

- 優勝 N T T 関東 A
- 準優勝 N T T 東海 A
- 第三位 N T T 四国 A
- 第三位 N T T 東京 B

女子団体戦 (12チーム参加)

- 優勝 N T T 東京 A
- 準優勝 N T T 東海 A
- 第三位 N T T 東京 B
- 第三位 N T T 東海 B

個人戦

六段の部 (21名参加)

- 優勝 茂木英三郎 (中国)
- 準優勝 白石 栄一 (本社)
- 第三位 安島 孝行 (リース)
- 第三位 安藤 智明 (北海道)

二・三段の部 (43名参加)

- 優勝 吉田 憲生 (九州)
- 準優勝 上村 昌弘 (東京)
- 第三位 戸谷 敦司 (東海)
- 第三位 大村 剛 (東海)

女子の部 (39名参加)

- 優勝 小木曾 香 (東海)
- 準優勝 地副真紀子 (東海)
- 第三位 渡部比路子 (東京)
- 第三位 小澤 淳子 (東京)

四・五段の部 (43名参加)

- 優勝 松元 益雄 (東海)
- 準優勝 高橋 邦忠 (関東)
- 第三位 藤原 茂生 (関西)
- 第三位 横山 賢蔵 (九州)

初段以下の部 (16名参加)

- 優勝 炭谷 英雄 (中国)
- 準優勝 山本 剛 (リース)
- 第三位 石川 建之 (東海)
- 第三位 蔭山 哲也 (関西)

地区だより

東三河地区

理事長 松本 武

第49回わかしゃち国体剣道競技総合優勝の輝かしい成果を収めたことは、平成六年十月のことでありました。

これを契機に、本地区鈴木健一理事長が勇退され総会の総意により会長に就任されました。

継続の重責を小生が引継ぐこととなりましたが幸いにも富田孝夫事務局長、松山之宏会計、清水和男事務局長補佐のスタッフが重任していただけることになりました。

理事長就任後任期の二年が経過せんとしておりますが、この間所定の事業計画を会員の皆様のご協力により達成することが出来ました。

当地区の活動状況につきましては、稽古初め(一月)、少年指導者打合せ会(四月)、東西三河合同稽古会(四月)、県指導会(各年)、稽古納め(十二月)等稽古会には約七十名の方が参加され七段以上の元立ち者も二十数名になりました。これらの稽古会の成果は昨年四・

五段に十九名、六・七段に六名が合格され会員の稽古熱も益々盛んとなって参りました。

加えて、49国体、全中全国大会開催を契機に中高校生の強化練習会を関係者のご努力によりこれまで継続しており、これらの成果は県レベルの大会に上位入賞につながることに確信をしております。

近年少子化による剣道人口の減少の影響は県連からの地区助成金の減少につながり地区連盟の運営上重大な問題となって参りました。

これらの状況を打開するため県理事会、副理事長会にこの窮状を正確に伝え助成金の増額ならび財務規程の見直しをなるべく活動したいと存じます。

どうぞ各地区の皆様方にはご理解とご指導の程を紙面を借りてお願いを申し上げ、本地区のご紹介とさせていただきます。

「高校生強化練習会を

顧みて」

高体連東三河支部

中島 隆之

現在、みだしの会を東三河剣道連盟の絶大な技術的、経済的等の援助



により年三回（六・八・十二月）実施していますが、近年高校に於ける部員数の減少により一時の盛況さがないのが残念です。

顧みれば、この会が開始されたのは当時の高体連東三河支部副部長の富田孝夫先生と東三河剣道連盟会長の匹田勝夫先生の尽力により昭和五十年代の前半でした。夏休みの三日間連続という方法で実施されましたが、先生方は手弁当での指導であり生徒達も毎日豊橋市武道館に集まり終日汗を流し技術の向上を目指していました。



合同稽古会に参加して

桜丘高等学校

正木 孝典

東三河剣道講習会に参加して、大勢の先生方と沢山稽古出来たのは、大変良い体験となりました。

日頃は、型にはまった稽古で、自己満足し、どうしても反省が疎かになりがちでした。相手の癖も分かっているし、対応も決まってしまうところが、ところがこれまでと全く違う対戦相手だと勝手が分からず相手のペースにはまってしまいます。技も十分発揮することが出来ません。従って気合いばかり先に立って、かわされてしまうのです。精神的な面で遅れをとってしまうのです。

そこから「気・剣・体」が必要であるわけです。

でも残念なことは、いくら素晴らしい先生方に指導していただいてもそれを受ける生徒が少なければ、せっかく一日使ってやるこの講習会も意味がありません。東三河の剣道は名古屋の方に比べると、まだまだ、試合で勝ったり出来ないのです、こういう講習会をもっと開催して、東三河の剣道のレベルアップを図ってほしいと思います。

稽古に参加して

遠山

愛

十二月十五日、桜丘高校において東三河強化練習会が開かれました。男女合わせて総勢八十名程が参加しました。

稽古をはじめに先立ち、東三河剣道連盟会長の鈴木先生からお話がありました。剣道の精神から具体的な竹刀の握り方まで丁寧にお話くださり、始まる前から自分の剣道を反省させられ、身が引き締まる気がしました。

基本打ちにおいても講師の先生が丁寧に指導して下さいました。時には上手な選手が見本として指名されました。その時感心するとともに「いつか自分も指名されたい。」と思いました。何気なくやっていた基本打ちの思わぬ欠点がわかり、これからの練習に活かしていきたいと強く思いました。

つづいて試合練習をしました。新人戦から他校も強くなっていることがわかりもともと練習しなければと改めて気合が入りました。また自分達で審判をしたので一本になる打ち、ならない打ちを客観的な目で

確かめることができました。多く先生方の指導の下、他校の選手たちと互いに切磋琢磨し合えるこの強化練習会に次回も参加したいです。

東三河中学校の

剣道の取り組み

形原中学校 田中 源 五

東三河剣道連盟では、「本連盟の中学生の剣道技量向上と優秀な生徒の育成」をねらい、平成三年度より月一回の練習会を行っています。

平成三年度から五年度までは、国体強化選手の養成と銘打って行ってきました。そして、平成六年度からは、全国中学生剣道大会愛知県開催のため、地区の強化として取り組んできました。

今年の平成八年度からは、東三河中学生の強化練習会として、一年生から三年生の剣道部部員全員を対象にし、保護者の理解をいただいた生徒を指導しています。

参加生徒は、毎回一〇〇名を越える生徒が各地区から来ています。

総会時には、中学校の取り組みの様子を述べると共に、練習会のご指

導をお願いしておいたために、剣道連盟の先生方も多く指導に当たって頂いています。

この成果として、八年度県大会で男子四チーム参加の内三チーム、女子も四チーム参加の三チームが、東海大会に駒を進めることができました。今後も連盟のご理解、ご支援を頂き、継続していききたいと思っております。

東三河女子部

毎月第二、第四水曜日豊川武道館
第三土曜日 下五井武道館で一般女子の稽古会を行っています。
ぜひご参加下さい。



第四回全剣連社会体育指導員

養成講習会に参加して

岡崎市剣道連盟 野口 輝 行

平成八年十月二十三日（水）から、

同二十七日（日）まで、知多郡美浜町にある愛知県美浜少年自然の家に於いて、全日本剣道連盟主催「第四回社会体育指導員養成講習会」が開催された。

講師としてお越し頂いた先生方は、全剣連社会体育指導者委員会委員長福本修二先生をはじめとして、坪井三郎先生、松永政美先生、林邦夫先生、矢野博志先生、田口榮治先生、井上茂明先生、小沼宏至先生、百鬼（なきり）史訓先生、岡村忠典先生、脇本三千雄先生、吉田泰将先生といった全剣連の先生方と、現役の医師である羽田野徹夫先生であった。願ってもないような素晴らしいスタッフに恵まれ、今後の剣道指導に関してはこちらの先生のこと、私自身の剣道人生にとっても全く有意義な五日間であった。

一 学科講習について
学科講習の履修科目と各講師は左記のとおり

（二日目）
◇剣道の特性に関する概要
（坪井三郎先生）

◇日本概史上での剣道の歴史
（ ）

◇剣道の歴史的背景とその意味
（ ）

（二日目）
◇剣道具及び服装に関する事項
と打突部位（福本修二先生）

◇剣道具の衛生と竹刀の整備、
身体の安全（百鬼史訓先生）

◇剣道に必要な基本的体力トレーニング論（ ）

◇剣道の試合審判規則の意義と
役割の理解（福本修二先生）

◇傷害・疾病の観察と対処
（羽田野徹夫先生）

（三日目）
◇剣道の技術・体力トレーニング
G1・2（林邦夫先生）

◇技術の指導効果の評価法
（岡村忠典先生）

◇剣道の正しい基本技術を体得
する指導法（福本修二先生）

（四日目）
◇対象別初級者の指導法《興味
を持たせる工夫》
（岡村忠典先生）

◇指導計画の立案《年間・月間
計画の工夫》（ ）

◇審判の基本技術実習1
（松永政美先生）

（五日目）
◇個人指導法《基本技術の指導》
（脇本三千雄先生）

◇集団指導法《指導形態・運営
法・実践と工夫》（ ）

私は現在、県立高校の剣道部の顧問として指導のお手伝いをさせて頂いているが、以前より、剣道そのものの、あるいはその指導法、また、体育・保健学的な知識を体系的に学ぶ機会が欲しいと願っていた。そうした意味で、このような機会に恵まれて、自己の中に指導の理論的裏付けが出来たことは、今後の指導に際し

て自信を持って臨むことが出来るようになった。また、「試合・審判規則」に関して、一つ一つの条文について、その意味を確認することが出来た。

二 実技講習について

実技講習の履修科目と各講師は左記のとおり

(二日目)

◇剣道の基本技術実習及び指導
法1、3
(矢野博志先生・林邦夫先生)

(三日目)

◇剣道の基本技術実習及び指導
法4、6 (井上茂明・田口榮治・矢野博志・林邦夫・福本修二の各先生)

(四日目)

◇剣道形の太刀と操作と作法1・2
2 (小沼宏至先生)
◇審判の基本技術実習2・3
(松永政美・岡村忠典・脇本三千雄の各先生)

◇審判の基本技術及び剣道形補習1・2 (岡本忠典・脇本三千雄・田口榮治・福本修二の各先生)

まさに剣道の基礎・基本のさらなる根本的な部分である「自然体」「竹

刀の持ち方」「構え方」「足さばき」から御指導頂き、自分の技術の未熟さを思い知らされた。先生方が、まさにティームティーチングで講習生の間を巡視され、文字通り手とり足とりで御指導された。履修過程が漸進的で体系付けられていたので、一つ一つの動きを理合の中で理解することが出来た。今後の指導や自己研修にとつて大きな収穫となった。

三 評価テストについて

前記の学科講習の講義内容については、二日目・三日目の第二時限及び五日目の第三・四時限の記述形式(一部選択形式)のテストが実施された。

また、実技講習の内容については、審判の基本技術については四日目の実習に並行したかたちで、剣道形と基本技術については五日目の午後の時間にテストが実施された。久しぶりに学生に戻ったような新鮮な感覚があった。

四 稽古会について

稽古会は一日目の夜と、二日目・三日目の夕方に一時間程度行われた。先生方にはお疲れのところであったと思うが、積極的に元立ちに立つて

頂けて、あまり好ましくいことではないが、ここでもまた、学生に戻ったように精一杯掛かっていく自分を発見した。また、講習生同士でも気さくに稽古に応じて頂き、様々な剣風に触れることが出来たのは有り難い経験となった。

坪井先生の講義のなかの言葉を借りさせて頂くが、剣道の特性とは「伝統的特性」「競技的特性」「運動的特性」「精神的特性」の四つである。この中のどの一つをも考慮せずに、或いは、あるものだけを偏重して指導したならば、それは正しい剣道指導ではない。ところが、本講習を終えて自分の指導を顧みてみると、はたして、正しい指導を行っていたかどうか、反省すべき部分が多くあることを思い知った。また、自分が指導者として、正しい剣道を実践していたかどうかについても、眼から鱗が落ちる思いであった。さらには、自分が審判として試合場に立つ場合、どういうことを念頭において判定を下すべきなのか、改めて認識をし直すことが出来た。私自身剣道を一生続けていくつもりであるが、剣道の指導者の一人として、かつ、剣の道を求めていくものの一人として、今

回講習会では言葉では表し尽くせないほどの宝物を沢山頂いたような気持ちでいっぱいである。

おめでとうございます。 称号及び段位合格者

- 居合道七段 (七年十一月十八日 東京) 宇井幸夫 (43)
- 居合道六段 (七年十一月十八日 東京) 柴田敬子 (50) 榎本国康 (52) 加賀善康 (57) 加藤 博 (80)
- 剣道六段 (七年十一月二十三日 愛知) 中村隆信 (28) 森園昭俊 (29) 水野 大 (29) 仲 久光 (31) 野末敏郎 (32) 鈴木卓彦 (35) 中村 聡 (37) 杉浦優治 (38) 石原洋一郎 (40) 林 孝郎 (40) 高木頼篤 (41) 塩入谷義弘 (42) 武田哲臣 (46) 寺本正則 (48) 伊藤博文 (51) 斉藤芳行 (56) 牧野三四一 (59) 後藤博紀 (64)
- 剣道七段 (七年十一月二十八日 東京) 杉浦雅人 (41) 新美邦廣 (47) 石橋史安 (56) 大橋 勲 (57) 大島 登 (66)
- 剣道七段 (七年十一月二十九日 東京) 中本浩巳 (35) 徳園元孝 (36) 森 健志 (36) 津田 悟 (41) 鈴木 睦 (41) 中田知則 (41)
- 高嶺豊樹 (42) 西野紘一 (53) 武野博文 (56) 宮下静雄 (57) 籠谷克美 (59) 武田信三郎 (66)
- 剣道錬士 (七年十一月二十九日) 北村真一 (34) 松橋建雄 (34) 神谷秀明 (39) 筒井政行 (40) 堀田之人 (40) 平松俊三 (40) 寒竹富士雄 (45) 岡田英明 (47) 金原秀男 (48) 井手 勇 (51) 加藤秀美 (53) 杉山直宏 (54) 犬塚拓治 (54) 秋山武敏 (62)
- 居合道錬士 (七年十一月二十九日 東京) 吉田伸一 (39) 勝野隆治 (61)
- 居合道錬士 (七年十一月二十九日) 本多勇夫 (67)
- 杖道錬士 (七年十一月二十九日) 杖道 隆 (44) 杖道錬士 (七年十一月二十九日) 後石原国夫 (53)
- 剣道五段 (七年五月三日 名総体) 小林一良 (26) 杉元明伸 (31) 星野輝人 (34) 高木由人 (39) 太田政弘 (40) 服部光雄 (44)

- 剣道五段 (七年七月十六日 知立) 関屋猛久 (23) 近藤佳幸 (26) 菊池雅樹 (27) 小森竹浩 (29) 野村英幸 (32) 川合規夫 (32) 鈴木賢治 (42) 森川好夫 (47) 剣道五段 (七年十一月五日 稲永) 廣橋秀起 (24) 稲垣勝典 (27) 竹本克巳 (31) 籾 和美 (31) 福田武雄 (33) 井上好美 (35) 近藤克英 (38) 三浦康郎 (39) 小池信之 (40) 日置哲哉 (41) 吉原辰美 (43) 大平武輝 (51) 山田信輔 (54) 森部才兵 (56) 上條美佐枝 (28)
- 居合道五段 (七年十月一日 中村) 宮野喜好 (40) 岡田克彦 (41) 戸田治夫 (43) 濱崎豊信 (47) 田中章弘 (55) 野村正美 (61) 加藤美代子 (46) 松下美智子 (48) 犬飼繁美 (48) 平田ケイ子 (50) 山田八重子 (54)
- 剣道五段 (八年五月三日 稲永) 林 大輔 (24) 井西利之 (24) 坂 誠康 (24) 吉田博行 (28) 加藤正之 (28) 半田憲生 (30) 小寺正行 (33) 牧野孝夫 (37) 藤坂彰一 (48) 小柳喜義 (48) 田中和治 (49) 杉浦 初 (54) 長坂利重子 (36)
- 剣道範士 (八月五日 京都) 廣橋秀起 (24) 稲垣勝典 (27) 籾 和美 (31) 井上好美 (35) 三浦康郎 (39) 日置哲哉 (41) 大平武輝 (51) 森部才兵 (56) 中村 聡 (37) 杉浦優治 (38) 石原洋一郎 (41) 林 孝郎 (41) 高木頼篤 (42) 武田哲臣 (46) 伊藤博文 (52) 斉藤芳行 (57) 牧野三四一 (59) 平島 公 (62) 後藤博紀 (64)
- 居合道錬士 (八年五月四日 京都) 柴田敬子 (51)
- 剣道八段 (八年五月七日 京都) 近藤勁助 (57)
- 剣道七段 (八年五月八日 愛知) 菊池勝美 (39) 下園千秋 (41) 杉本数敏 (41) 山本 登 (43) 田村輝志 (44) 手嶋定司 (55)
- 剣道六段 (八年五月七日 京都) 北原 健 (31) 近藤治彦 (32) 田中彰浩 (32) 長谷川充 (34) 近藤博晴 (37) 一柳広治 (40) 竹内祥裕 (42) 小林 進 (48) 葛谷昌保 (58)

- 翁長良明 (70)
- 剣道教士 (八年五月八日 京都) 大河内鉄彦 (35) 竹崎裕恭 (37) 杉浦雅人 (41) 高橋正法 (45) 田中章市 (47) 石橋史安 (56) 大河内閼雄 (57) 大橋 勲 (57)
- 剣道錬士 (八年五月八日 京都) 森園昭俊 (29) 仲 久光 (31) 内田信之 (34) 鈴木卓彦 (36) 中村 聡 (37) 杉浦優治 (38) 石原洋一郎 (41) 林 孝郎 (41) 高木頼篤 (42) 武田哲臣 (46) 伊藤博文 (52) 斉藤芳行 (57) 牧野三四一 (59) 平島 公 (62) 後藤博紀 (64)
- 居合道錬士 (八年五月四日 京都) 柴田敬子 (51)
- 剣道八段 (八年五月七日 京都) 近藤勁助 (57)
- 剣道七段 (八年五月八日 愛知) 菊池勝美 (39) 下園千秋 (41) 杉本数敏 (41) 山本 登 (43) 田村輝志 (44) 手嶋定司 (55)
- 剣道六段 (八年五月七日 京都) 北原 健 (31) 近藤治彦 (32) 田中彰浩 (32) 長谷川充 (34) 近藤博晴 (37) 一柳広治 (40) 竹内祥裕 (42) 小林 進 (48) 葛谷昌保 (58)



手数料一覧表

剣道・居合道・杖道

平成9年4月1日実施

段・級	審査料	登録料
8～2級	800円	1,600円
1級	900円	2,100円
初段	1,600円	4,300円
式段	1,800円	5,100円
参段	2,600円	7,400円
四段	3,200円	9,200円
五段	4,000円	13,900円
六段	9,000円	31,000円
七段	12,400円	50,100円
八段	15,800円	72,700円
称号		
錬士	17,000円	40,600円
教士	24,900円	58,600円
範士		78,750円

※審査料 据置き、消費税一部県剣連負担。

※登録料 消費税5%込み

※審査日前日までに満70歳になった方は、登録料半額

※1級受験に際し、愛知県剣道連盟入会金として終身会費 5,000円を納入しなければなりません。

*以上の他に事務手数料が若干かかります。

居合道七段(八年六月十日) 千葉
原田達也(65)
居合道六段(八年六月十日) 千葉
松岡良雄(46)
剣道五段(八年八月四日) 蒲郡
島 光雄(25) 佐久間明宏(25)
柴田善行(25) 西垣内晃久(26)
太田洋一(29) 三尾吉見(36)
上藤 光(42) 須賀桂輔(43)
木下尚晃(43) 早川隆夫(44)
辻岡信義(46) 富田孝行(47)
佐藤邦子(52)
剣道六段(八年八月二十五日) 福岡
鈴木康之(29) 石原たまみ(29)
剣道七段(八年九月十五日) 福島
長江秀教(43) 市村公勇(46)
大嶋多津夫(48) 小島 弘(66)
杖道七段(八年十月七日) 神奈川
小島六男(47)
剣道五段(八年十一月十日) 福永
松田宣人(24) 近本 巧(25)
河西 勝(26) 増田光師(28)
和田英之(29) 藤村英生(30)
佐竹秀之(31) 和田辰己(31)
松下修二(31) 戸谷 亮(32)
駒瀬敏彦(32) 市川公生(35)
浅井直人(35) 坂野賢二(37)
川野 実(43) 藤 嶺(44)
宮野祐一(44) 井上敏雄(44)
石川敏典(45) 神野正隆(45)

小野田哲(48) 青山哲郎(53)
石川玄道(79) 中村智穂(26)
犬飼繁美(49)
剣道六段(八年十一月十七日) 愛知
岡田真直(29) 浅野卓志(31)
飯ヶ谷孝文(34) 永岡伸一(35)
宮崎正充(36) 井上喜晴(36)
田代昭人(37) 原田力賢(40)
藤原萬徳(42) 竹内理雄(43)
森谷義弘(50) 野呂讓三(51)
山田 裕(51) 西岡喜代一(56)
乗松 孝(57)
居合道六段(八年十一月十六日) 東京
松本利幸(53) 杉浦俊輔(53)
大木康子(53) 佐原邦夫(54)
嶋田太源(83)
剣道教士(八年十一月十六日) 東京
菊池勝美(39) 下園千秋(42)
山本 登(44) 長江秀教(44)
田中輝志(44) 市村公勇(46)
大嶋多津夫(48) 手嶋定司(55)
剣道錬士(八年十一月二十七日) 東京
鈴木康之(29) 中村隆信(29)
北原 健(31) 近藤治彦(32)
野末敏郎(33) 近藤博靖(38)
一柳広治(40) 加来三津雄(43)
竹内祥裕(43) 小林 進(49)
葛谷昌保(59) 石原たまみ(29)
居合道教士(八年十一月二十七日) 東京

宇井幸夫(44) 原田達也(66)
居合道錬士
(八年十一月二十七日) 東京
松岡良雄(47) 榎本国康(53)
加賀善康(58) 加藤 博(82)
剣道七段(八年十一月二十六日) 東京
石川浩二(35) 白石裕章(39)
村瀬宣治(46) 長谷川真(47)
榎七三男(47) 稲吉正幸(48)
山口健介(50) 安倍剛夫(52)
長谷川清(59) 糟谷高義(59)
居合道五段(八年十月六日) 名総体
鈴木孝夫(42) 鈴木一彦(55)
片田征治(57) 梁井由明(58)
奈良谷幹雄(72)
杖道五段(九年三月二日) 豊橋
鈴木宏道(37) 小出友久(45)
加藤宜志(45) 藤坂彰一(48)
伊藤邦彦(63)



事務局だより

剣道学科問題

平成九年度、学科試験について

一、出題教科書

○初段の部

(1) 剣道の理念

(2) 剣道の訓

○二、三段の部

(1) 剣道の理念

(2) 剣道の訓

○四、五段の部

(1) 剣道の理念と修練の心構え

(2) 少年指導要領

(4) 審判法

(5) 日本剣道形

二、出題形式

記述式、語句挿入、選択肢(記号で解答)等です。

居合道学科問題

居合道本より出題されます。

杖道学科問題

杖道教本より出題されます。

平成9年度事業計画

財団法人 愛知県剣道連盟

Table with columns for dates (12月 to 3月), events (行事), venues (場所), and times (時間). Includes various tournaments and seminars.

備考 ●全剣連 ▲県連 △県連関与 ※その他

各地区自主練習開催日 名古屋…毎月第2月曜日・第4月曜日(19:00) 尾南…毎月第1金曜日(19:00) 西三河…毎月1回 東三河…毎月第2・第4金曜日

平成9年度事業計画

財団法人 愛知県剣道連盟

Table with columns for dates (8月 to 3月), events (行事), venues (場所), and times (時間). Includes various tournaments and seminars.

備考 ●全剣連 ▲県連 △県連関与 ※その他

各地区自主練習開催日 名古屋…毎月第2月曜日・第4月曜日(19:00) 尾南…毎月第1金曜日(19:00) 西三河…毎月1回 東三河…毎月第2・第4金曜日

平成九・十年度役員名簿

副会長	杉山孝雄	理事長	加藤信彦
会長	鈴木正雄	副理事長	中山薫
相談役	光松靖起	理事	青山定男
	内藤正之助		山本重夫
	山田満寛		北村豊夫
	鈴木健一		太田吉郎
	愛知県警察		松本武
	近藤利雄		寺澤将美
	榊原正		渡邊一夫
	谷正亮		深田正夫
	小川亮		伊藤彦
	池内秀夫		細川昌彦
	安藤兼一		林昌夫
	秋田森治		富田孝夫
	匹田勝夫		仲山納夫
	森武雄		水野八郎
	船橋正一		大野弘
	廣瀬之		田中將文
	加藤弘之		大嶽将文
	水野文雄		細田将文
	鈴木守治		北村滋敏
	翁長明		松岡良高
	伊藤宗太郎		伊集院俊基
	水谷徳正		小林俊
	濱田修作		中田勇
参		監	
与		事	

評議員	杉山孝雄	事務局長	竹由登
	鈴木正雄		平塚玲子
	光松靖起		竹内康惠
	中山薫		
	青山定男		
	山本重夫		
	北村豊夫		
	太田吉郎		
	松本武		
	寺澤将美		
	渡邊一夫		
	深田正夫		
	伊藤彦		
	細川昌彦		
	林昌夫		
	富田孝夫		
	仲山納夫		
	水野八郎		
	大野弘		
	田中將文		
	大嶽将文		
	細田将文		
	北村滋敏		
	松岡良高		
	伊集院俊基		
	小林俊		
	中田勇		

随想

SMAPと剣道

SMAPのことは、人気絶頂のタレントのキムタクはじめ五人のグループであることはご承知のとおりである。東海テレビ月曜日午後十時から時々放映される。中居道場主、中居周作こと中居正広、草薙むさしこと草薙剛、剣道歴六年、木村小次郎こと木村拓哉、剣道歴十一年、小次郎の手下慎吾左衛門こと香取慎吾、オランダ宣教師、サビエルゴロー・小次郎こと稲垣吾郎が、武将の姿で画面にあらわれる。対戦相手に、リンドバーグが登場する。リンドブこと川添智久、剣道二段、バークこと小柳チエリ昌法剣歴二年との対戦となる。突然服装が変わり剣道試合のとおりになり、審判員足立憲助六段の無制限三本勝負「はじめ」の合図で試合が始まる。ヤーオーのかけ声と共に相互の理合のうち、小次郎の出ばなの面一本。赤旗三本あがる。更に激しい打ち合いの時、リンドの小手決まる。その時、画面右側に、試

合規則のスーパードが出る。小次郎面に打ち込む、リンド抜き胴、旗一本、副審なしの表示。気剣体一致でないから一本とならないと解説される。試合再開小次郎場外に出る。反則一回解説つき。打ち合いの中、小次郎小手を取り「勝負あり」となる。慎吾左衛門「おもしろいね、おれも挑戦したい。」サビエルゴローが「剣道は奥が深いね。」とコメント。まさに真剣勝負の試合で迫力あり、幼少年が好むテレビ放映であり、剣道人口の減少の中、この種の放映を続けて欲しい。芸能人で剣道経験者を募集しているとのこと。われわれ剣道愛好者からも一般募集をお願いしたいものである。喜んで進んで出場する人も多数いると思う。勝手に想像から。(広報委員 弘)

訃報

深川辰磨(六十八才)

剣道範士八段

愛知県剣道連盟 副理事長
尾張剣道連盟理事長

平成九年三月二十日 逝去

謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

ねんりんピック'98愛知・名古屋が平成十年秋、西尾市で開催されることを先づもってお知らせ致します。観の眼二十号で、中日新聞「スポーツ愛知・みんなのスポーツ」へ各大会の成績の投稿をおねがいしましたところ、その都度、大会名、成績等が掲載され広報委員としましては、誠に喜ばしい限りです。引き続き本年度も同様よろしくおねがい致します。なお、皆様方のご要望、ご意見を連盟の方へご投稿くださいますようお願い申し上げます。

広報委員長 田中弘
広報委員 中川治彦
北村滋敏
若松幸雅

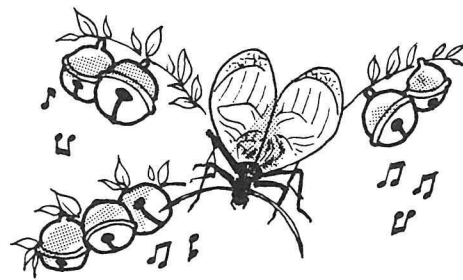
中日新聞社

成績の持参またはファックス先は以下の通りです。

- ◇本社 (名古屋市中区3の丸1ノ6ノ1)
FAX 052(201)4331
問い合わせは 電話052(221)0793
- ◇豊橋支局 (豊橋市八町通3ノ91)
FAX 0532(54)4655
- ◇岡崎支局 (岡崎市東明大寺町16ノ18)
FAX 0564(25)1554
- ◇豊田支局 (豊田市美山町3ノ34ノ34)
FAX 0565(25)1118
- ◇一宮支局 (一宮市大江1ノ13ノ13)
FAX 0586(72)5035
- ◇半田支局 (半田市出口町1ノ45ノ18)
FAX 0569(23)2372
- ◇春日井支局 (春日井市鳥居松町3ノ60)
FAX 0568(81)2797

読売新聞社

FAX 052(211)1085
取材に来てくれることもありますので、先ず一報を



広報「観の眼」第二十一号
平成九年九月一日

財団法人愛知県剣道連盟

〒451名古屋市中村区鳥居通り

二ノ四一ウチフジビル二階

電話(〇五三)四八一〇〇九三

FAX(〇五三)四八一〇〇九五

題字・故竹田弘太郎名誉会長